

# 北区生物マップ

## 王子エリア



### A 清水坂公園

旧国鉄官舎の跡地に造成された、面積約2haの公園です。公園の北側には自然観察園があり、区内の自然や生物に関する展示が行われている「自然ふれあい情報館」も設けられています。公園の外周にはイヌシテ、ミズキ、コナラ、シロダモなどの樹木が多く、ヒメリンゴやカリン、ナツミカンなど、実のなる樹木も目立ちます。夏にはアブラセミアミンミンゼミなどのセミ類が多く、サトキマダラヒカゲやツツアカネも見られます。自然観察園には池や水田があり、ヤナギ類やセリ、ジュズダマ、ウキウキ、コナギ、ヌカキビなど湿地を好む植物が生育し、シオカラトンボやオシオカラトンボが見られます。シジユウカラやキジバト、メジロ、オナガなど、市街地で見られる鳥類が生息していますが、秋にはヤマガラが、エゴノキの実をついていることもあります。



### B 中央公園

陸上自衛隊十条駐屯地に隣接する、面積約7.9haの広い公園です。かつては軍用地で第二次世界大戦後に米軍に接収され、返還後に公園として整備されました。公園内にある文化センターは洋風の白い壁が印象的で、ドラマや映画のロケ地にもよく使用されます。スタジイやマテバシイ、ヒマラヤスギ、サンゴジュなどの常緑樹が多く植えられていて、落ち着いた環境を創り出しています。コケラやシジユウカラ、メジロなど、樹木の多い環境を好む鳥類が生息し、秋から冬にはツグミやアカハラが、地上に積もった落ち葉をかき分けてエサを探しています。広場の周囲のやや明るい環境ではイヌタデ、タチツボスミレ、ヒナタノイノコツチ、コナスビ、カラスビシャク、キツネノマゴ、ナキリスガなどの草本類を見ることができます。



### C 名主の滝公園

江戸時代の末期に、当時の王子村の名主が湧き水を利用して、滝を築いたのが始まりです。武蔵野台地の崖線に位置していて、斜面に北区の自然植生であるスタジイ林がみられます。園内全体に樹木が多く、ミンミンゼミ、アブラセミ、ツクツクボウシといったセミ類が多く生息しています。都市部では少なくなったヒグラシの声も、毎年確認されています。コムシジやサトキマダラヒカゲなど、樹林性のチョウ類も生息しています。落ち葉が積もって湿った場所では、アズマヒキガエルが休んでいます。またアオダイショウが現れて、驚かされることもあります。池ではカルガモやハクセキレイのほか、ゴイサギやキセキレイの姿を見ることがあります。池の石の上では、外来種のミンシツピアカミミガメが多数休んでいます。在来種のクサガメの姿も見られます。



### D 石神井川と川沿いの緑地

石神井川は小平市内に源を発し、北区堀間で隅田川に合流する、延長25.2kmの一級河川です。蛇行していたかつての川の跡地（旧河道）などを利用して、川沿いに多くの緑地が設けられています。石神井川の鳥の種類の数が増えるのは秋から冬です。音無もみじ緑地のワンド付近には、コガモ、オナガガモ、キンクロハジロなどのカモ類や、ユリカモメが集まります。このワンドにはオイカワやドジョウなどの魚類や、ミナヌマエビなどの底生動物も多数生息しています。音無さくら緑地や音無くぬぎ緑地ではコケラやアカハラなど、樹木の多い環境を好む鳥類を見ることができます。川の中洲ではクサガメやミンシツピアカミミガメが休んでいます。大きなニホンズボンの姿を見ることがあります。



### E 飛鳥山公園

徳川八代将軍吉宗が1,270本の桜を植えて江戸庶民の行楽の地として開放したのが、公園の始まりといわれています。明治6年(1873年)には、日本で最初の都市公園に指定されています。飛鳥山公園と言えば桜ですが、代表的なソメイヨシノのほかに、様々な品種も植えられています。J R線路沿いの「飛鳥の小径」では、初夏にアジサイの花を楽しむことができます。崖線の樹林地にはミズキ、ムクノキ、シラカシなどの高木のほか、シロダモ、アオキなどの中低木、ヘニシダ、ナガバシヤノヒゲなどの林床植物が生育しており、良好な環境が保たれています。鳥類ではコケラ、ウグイス、アオジなどのほか、春秋に渡りの途中のオオルリやメボソムシクイが確認されています。アカスジキンカメムシやアオカミキリモドキなど、樹林性の昆虫類も見ることができます。



### 街路樹の種類

記号	種類	記号	種類
🍷	イチヨウ	🌸	ハナミズキ
🍁	イロハモミジ	🌼	ヒメシャラ
🌿	エンジュ	🍂	フウ
🌳	ケヤキ	🌱	プラタナス類
🌸	サクラ類	🌿	マテバシイ
🌸	サルズベリ	🌼	モミジバフウ
🌳	タブノキ	🌸	ヤマモモ
🌳	トウカエデ	🌿	その他の種・複数の種

### 公園で拾えるドングリ

記号	種類	記号	種類
🌰	スダジイ	🌰	ウバメガシ
🌰	マテバシイ	🌰	コナラ
🌰	シラカシ	🌰	クヌギ

### F 荒川(豊島)

北区の北東側を流れる隅田川は蛇行しており、豊島五丁目付近は俗に「天狗の鼻」と呼ばれる、凸形の地形をしています。その先には、隅田川と荒川に挟まれた草地が広がっています。隅田川や荒川では、カワウがよく水に潜って魚を捕らえています。ウミネコやセグロカモメ、サキ類の飛ぶ姿も見られます。昆虫類では草食性の種が多く見られます。シヨウリウバツタ、トノサマバツタ、コバネイナコ、ヒロバナカンタン、クビキリギスなどバツタの仲間のほか、ナナホシテントウ、ヨモギハムシ、フタクサハムシなども見られます。夏にはウスバキトンボが浮かぶように飛び、秋も深まるとアキアカネの数が多くなります。蝶の仲間ではイチモンジセセリやモンキチョウ、ツバメシジミのほか、幼虫がヤナギの仲間の葉を食べる、コムラサキの姿も見られます。



### G 装束榎

岸町一丁目にある王子稲荷神社には、毎年大みそかに関東近辺中の稲荷神社の使いのキツネが参詣するのですが、その前に大きなエノキの下に集まって衣装を改めるという言い伝えがあり、このエノキは「装束榎」と呼ばれていました。装束榎があった場所には装束稲荷神社が設けられました。現在の神社はその後移設されたもので、新たに植えられたエノキが育っています。



### H 王子神社のイチヨウ

樹高は20mを超え、一説に樹齢300年以上と言われていた大木です。昭和14年(1939年)3月に、東京都の天然記念物に指定されています。第二次世界大戦中の昭和20年(1945年)4月13日、空襲によって田端から赤羽にかけての広い範囲が被害を受けましたが、このイチヨウは焼け残り、今でも横枝を広げて生長を続けています。



1 : 9,000